

図書館蔵のネフスキーのメモ類の中には、在日中のネフスキーにあてたアレクセーエフの書簡が数通あることも確かめた。こうしたことから、アレクセーエフの人物に興味を抱くようになったものである。

本書を読んで痛感することは、アレクセーエフが中国民衆の生きた精神生活に深い関心を示していることである。民間画という極めて庶民的な印刷物を通じて、当時の中国社会の精神構造、民衆の精神生活をこれほど生き生きと解明することは、広い視野と深い学殖がなければできないと思われる。

中華人民共和国成立後の中国民衆の精神生活は、山間僻地においてもおそらく深刻に変化しているにちがいない。それだけに、アレクセーエフの蒐集した数千枚の木版の民間画およびそれに基づく研究は貴重であると言えよう。

本書の編集面について強いて注文をつければ、巻末にある人名と事項名のロシア文字漢字対照表のほかに、地名についても対照表が欲しいということである。また人名と事項名についても全部ではないので、われわれから見れば不便部分が残されている。

しかし本書は全体として、民間画という具体的な資料に基づいた研究であるだけに、その生命は長く、今後この方面の研究において必ず参照すべきものであるうと思われる。

B. Алексеев: Книжкаки народных картин-духовная жизнь

Старого Китая в народных изображениях. Академия Наук СССР. Институт народов Азии Москва, 1966.

サー・ハロルド・ヘイレイ著

コータン語テキスト 一—三(第二版)

辻 直四郎

ヘイレイ教授のコータン語テキスト一—五の内容については、本誌第四七巻(一九六四年)一一〇—一二四頁に紹介した。その中絶版になっていた前三巻の第二版が、一冊に収められて最近刊行された。初版と異なる諸点については、著者が新刊の冒頭で(Preface to the Second Edition)「簡潔に述べているところから明らかである。誤植等の瑕瑾(KT II, p. 133—134; III, p. 140)が是正され、転写の細部が精密化されたほか、若干の新しい資料が追加された。その中特に重要なのは、Sanghata-sutra(僧伽陀經) KT V, p. 328 ff. 参照)の断片二葉が、ギルギット梵語写本からの相応箇所と共に刊行されたことである(KT III, sec. ed. p. 139—142 参照)。KT-IIIがこのように改訂増補されて学界に送られたことは、コータン語研究者に多大の便宜を与えるものとして慶賀に堪えず、ほとんど独力で斯学を推進してきた著者の学

識と努力とに最大の敬意を表する。

この機会を利用して、ハイレイ教授の近業ならびにそれに関連するコータン語研究の現状について一言したい。KT V (1963) の出版以後、ハイレイ教授は KT II 中の四篇を翻譯したが、最もすぐれるものは、KT VI: Prolexis to the Book of Zambasta (XIX, 463 pp., Cambridge 1967) の刊行で、¹「ザンバスタ (Zambasta) の本」とはこの詩の作成を命じた役人の名をとって、教授が命名したものである (以下 Z と略す)。これはかつてロイマン父子が、²Das nordarische (saksische) Lehrgedicht des Buddhismus の名で公刊したものに對する語学的注解である。Z はコータン語で書かれた一篇の詩としては、現在の作品中で一番長く、用語はコータン語の最も古い段階に属しているから、古代バルシヤ語・アヴェヌスター語を補つて、古代イラン語の研究にきわめて貴重な資料を提供する。しかしロイマンの出版翻譯はすでに三十年余を経、その間特に Sten Konow の訂正があつたが、現在の学的要求にたえうる新出版が希望されてきた。ハイレイ教授の Prolexis はその準備として、詩中の単語をサンسكريットのアルファベット順に並べ、³その意義・用法・語原を言語学・文献学のあらゆる方法を駆使して検討し、特に頻繁に現われる単語以外は使用箇所全部を明示して

いる。今後の研究のためここに確固たる基礎が与えられた。

これより少しく先、Z 研究史上記憶すべきことが起つた。ロイマンが使用した写本 E のファクシミリ版がソヴェット学者の手により公刊され、しかもその中にはロイマンの知らなかつた部分、すなわち完全な紙葉十枚と不完全なもの九枚とが含まれていた。共に転写され、前者にはさらに露訳と語彙とが添えられている。ハイレイ教授の高足エマリク博士は、上記のファクシミリ版とこれをも利用した教授の Prolexis との上に立ち、Z の本文を批判的に校訂しかつ英訳した。学界多年の要望を満たす出版を完成したハイレイ教授ならびにエマリク博士の功績は偉大である。ただにイラン学界のみならず、仏教学界もまた慶びを分かつと信じる。ちなみにエマリク博士は最近コータン語に関する著書・論文に大活躍を展開しているが、特にその「サカ語文法研究」は信頼すべきコータン語文典として推称に値いする。

註一 KT II (sec. ed.) p. 7, n. 1 “with a” 𑎧𑎢𑎡𑎣𑎢𑎣𑎢𑎣 KT III (first ed.) p. 140 𑎧𑎢𑎡𑎣𑎢𑎣 “with a” 𑎧𑎢𑎡𑎣𑎢𑎣𑎢𑎣𑎢𑎣

註二 AM n. s. 11 (1964), p. 1—26; KT II, p. 110—114, p. 125—129; ib. (1965), p. 101—119; KT II, p. 101—108; BSOAS 30 (1967), p. 95—104; KT II, p. 117—121. 𑎧𑎢𑎡𑎣𑎢𑎣 Siddhasāra の序文 (KT I, p. 2—3) の訳註を Fr. Tagizadeh (London 1962), p. 31—38 に載つてゐる。

足込ベ合サリ且難語・語含雜文兼勢且綴終ヤ足且難語且ノシ
 リヤク KT VI (1967), p. IX 餘語。

註III Das nordarische (sakische) Lehrgedicht des Bud-
 dhismus. Text und Übersetzung von Ernst Leumann. Aus
 dem Nachlass hg. von Mann Leumann. 3 Hefte, Leipzig
 1933, 1934, 1936. Cf. M. Leumann: Zu zwei khotansakisch-
 en Fragmenten. DZMG 113 (1963), ep. 80—86.

註IV V. S. Vorob'ev-Desjatorovskij i M. I. Vorob'eva-
 Desjatorovskaja: Skazanie o Bhadre (Novye listy sakskoj
 rukopisi 'E'). Moskva 1965. Cf. R. E. Emmerick: Notes
 on the 'Tale of Bhadra'. BSOAS 30 (1967), p. 83—94.

註V R. E. Emmerick: The Ten New Folios of Kho-
 tanese. AM n. s. 13 (1967), p. 1—47.

註K Do.: The Nine New Fragments from the Book of
 Zambasta. AM n. s. 12 (1966), p. 148—178.

註J Do.: The Book of Zambasta. A Khotanese poem
 on Buddhism. Edited and translated. London 1968. 匡輔
 p. X 〇 Bibliography 梵ノニ國トク權語ヲ含メシニ匡輔ノ
 邦ノ邦語ヲ含メシニ匡輔ノ邦語。

註L Do.: Saka Grammatical Studies. London 1968. Cf.
 Do.: Syntax of the Cases in Khotanese. BSOAS 28(1965).
 p. 24—33; Khotanese Metrics. AM n. s. 14 (1968), p. 1—

20.

(H. W. Bailey: Indo-Syrhian Studies. Khotanese Texts
 I—III. Second edition. X, 257 pp.; X, 130 pp.; VIII, 149
 pp.; Cambridge, 1969.)